

群馬県の企業17社が25品目のシルク製品の開発を実現

富岡製糸場の世界遺産登録に合わせた シルク製品開発プロジェクトの成功！

「群馬県繊維工業試験場」では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、平成26年度に世界遺産登録への審議が行われるにあたり、本県の代表的な産物であり世界遺産に関連した上質なぐんまシルク・富岡シルクを活用した土産品に着目し、県内繊維産業の開発及び販売の強化に取り組むことで、群馬の絹産業を活性化させようと「世界遺産関連シルク製品開発プロジェクト」を発足しました。

公募により当社が事業の委託を受けて、平成25年10月より県内の繊維製品製造事業者との共同研究によって、富岡シルクを活用した土産品の開発に着手することとなった次第です。参加した事業者は21社でしたが、最終的に平成26年3月までに製品が完成できたのは17社25品目でした。

製品開発に成功した要因は、コンセプトとターゲットを明確にして製品開発を進めたことと、17の事業者がマーケティングを学びながら、以下の手順で事業を進めることができたことによります。

1. 調査・分析……① 世界遺産登録の対象施設である「富岡製糸場と絹産業遺産群（田島弥平旧宅・高山社跡・荒船風穴）」の現地調査 ② シルクの土産品を扱っている周辺施設の商品調査 ③ 富岡製糸場及び富岡

株式会社群馬

マーケティングセンター

ひかり税理士法人

群馬企画塾

取締役 沼澤啓吾

（群馬県高崎市）